令和４年２月１８日　知事と外国人県民との座談会　記録

宮城県国際政策課

（国際政策課長）
皆さんこんにちは。
本日は，知事と外国人県民との座談会にお集まりいただきましてありがとうございます。
開会に先立ちまして，知事から一言ご挨拶を申し上げます。

（知事）
知事の村井でございます。
今日はお忙しいところわざわざお越しいただきまして誠にありがとうございます。
宮城県は，外国の方と共生をする社会を目指さなければならないと考えてございまして，いろんな取り組みをやっております。
県内の昨年６月時点の在留外国人の方の数は約２万２０００人と，およそ県人口の１％になりました。
この割合は増えていく，増やしていかなければならないと思っております。
文化の壁，言葉の壁，いろんな壁があって，皆様方と接する機会というのはなかなかございません。
そこで，皆様方のように，それぞれのコミュニティーの関係者でいろんな声を聞き，仕事をされてる，そういう皆様にお話を伺いまして，県の外国人の方に対する対応の仕方をどうすればいいのかということについてアドバイスいただきたいと思い，このような機会を設けました。
今日は１時間という限られた時間でございますけれども，どうか忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

（国際政策課長）
ありがとうございます。
ここからは座ったままで進めさせていただきます。
今日は３人の方においでいただいておりますので，ここで，初めにお１人ずつ自己紹介と，それぞれが取り組まれている活動の内容についてご紹介をいただきたいと思います。
では，初めに宮城の宮城華僑華人女性聯誼会事務局長，梅琴（メイ・チン）様からお話をいただきます。

（梅様）
皆さんこんにちは。
宮城華僑華人女性聯誼会事務局長の梅琴（メイ・チン）と申します。
私は１９９２年に来日しました。
１９９６年に四国の香川県に移住し，通販会社で 10 年間勤務をしました。

２００９年に家族の転勤をきっかけに，仙台に越してきました。
仙台では主婦として生活していますが，たまに通訳の仕事や，ボランティアもしています。
それでは早速私たちの会を紹介いたします。

名前は宮城華僑華人女性聯誼会といいます。
愛称は宮華女（みやかじょ）です。
設立した大きなきっかけは東日本大震災です。
震災前は中国系のコミュニティグループがなかったのですが，その際に安否確認ができない，情報収集が難しいという困難があって，震災以降はいくつかのコミュニティグループができました。
ただ，女性だけの会はありませんでした。
宮華女を創立した直接的なきっかけは２０１６年に東北発の中国映画祭です。その映画祭のスタッフボランティアがみんな女性だったのです。
女性だけの支援とか，コミュニティーの特徴とか，地域との関わりとか，いろいろな女性視点から，宮華女を２０１６年１０月１日に設立しました。

目標としては，大きいのですが，「仲良く，楽しく，強く生きよう」とし，目的を三つ設定しました。
１つ目は各分野での学習のサポート，２つ目は子ども教育のサポート，３つ目は国際交流のサポートです。
この３つの目的に合わせた三本柱で活動してきました。
１つ目の学習の方ですが，日本語講座を始めいろいろな講座を開いてきました。
例えば社会保障制度や，法律の遺産税，中国語教育育成セミナーなどを行いました。
２つ目の子ども教育ですが，これは多文化共生のため，継承語の教育のため，２０１８年に子ども中国教室を開きました。
毎月１回のペースで開催しています。
また日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンスに積極的に参加して，通訳を派遣し，体験談をお話したりしました。
また中国のサマーキャンプに，子どもたちを連れて参加しました。
３つ目，国際交流については、中国の伝統文化を紹介したり，文化祭を開催したり，地域のお祭りイベントに参加したり，着物着付け教室を開いたり，中華料理教室を開いたりしました。
２０１６年に設立し，２０１７，２０１８，２０１９年の３年間は対面活動ができ，ほぼ毎月活動がありました。
２０２０年は残念ながら，コロナの影響で全ての活動を中止しまして，２０２１年は，時代の流れにも乗って，オンラインで，日本語教室，法律の講座や子ども中国語教室を開催しま

した。今年はどうなるのか検討中でございます。
国際交流として、例えば、国際文化祭，これは多国籍で，他の外国人コミュニティグループもご参加いただき，多いときには１５０名を超えた参加者もいました。
また地球フェスタでは，私たちの伝統的な踊りを出演したり，お店を出したりしていました。
また，着物体験教室も開催しました。富谷スイーツ博覧会にお店を出したこともあります。

宮華女には，ウィーチャットがありまして，現在３つのグループあります。
１つは，会員グループで現状９０名おります。
２０１９年末の会員ベースです。それ以降対面活動がなかったので新たな会員を募集していません。
２つ目は情報交流と情報交換グループです。
現在２０６名います。
このグループは，私たちの会に興味を持っている方が参加していますので，常にここでいろいろな情報発信と情報交換をしています。
例えばコロナの情報，SenTIA や MIA が出している情報，また，大使館が出している情報をほぼ毎日ここで発信しています。
また，みなさんが悩んでいることとか相談したいことがあれば，このグループで発信すると，誰かが答えるので，いわゆる助け合いグループとも言えます。
３つ目は子ども中国語教室のもので，これは親達のグループです。
このグループには，中国語教室の開催に関する情報とか，中国語の勉強に関する教材などをいろいろ発信しています。
現状としては，やはり始めるのは簡単で続けることが難しいという大きな課題がありまして，これについては次の話題になりますので，また次にお話しします。
私たちの活動は常にフェイスブックで紹介しております。
宮華女の活動の紹介は以上です。
よろしくお願いします。

（知事）
どうもありがとうございます。
梅さんは，１９９２年に来日されたということで，３０年以上になりますね。
（梅様）
はい、今年ちょうど３０年になりました。
（知事）
こちらに来られたとき，日本語はどれぐらいしゃべれたのですか。
（梅様）
全くゼロでした。

（知事）
言葉の壁が大変大きいですよね。
最初にいらっしゃって，香川に行かれたのが１９９６年で，それまではどこにおられたのですか。
（梅様）
京都でした。
（知事）
そこで日本語を勉強されて。
（梅様）
そうです。そこで日本語を勉強しました。
（知事）
京都は，例えば宮城と比べて，外国人が生活する生活のしやすさはどうですか。
京都は結構観光客が多いので，タクシーの運転手さんなんかも，いろんな国の言葉をしゃべったりできると聞いたことあるのですが，どうですかね，生活しやすかったですか？
（梅様）
京都の方はやはり街が伝統的で日本独特な街があるので，その要素が楽しいですね。
宮城の方はちょっと観光できる場所が少ないですね。
それが違うかなと思います。
（知事）
宮城県も東北大学があるので意外と留学生も多くて，中国の方たくさんおられるのですが，それこそ，東日本大震災の時に，我々もなかなか外国の方にまで目が行き届きませんでした。
アメリカの方で，津波で流されて亡くなった方もおられて，そういった方にちゃんと情報が流れるかどうかというのはものすごく心配でした。
こういうコミュニティーがあると知ったので，この前の知事選挙の時にも同じようにオンラインで対談をやりまして，その際にいろいろな国ごとにアドバイスいただいて，コミュニティーがあるので，そういうコミュニティーの関係者の方としっかりつながっていれば，我々は県のホームページで「どうぞ」と出して，「皆さん見てください」だけなのですが，そうではなくて，直接，梅さんなら梅さんに連絡をすれば，おそらく少なくとも先ほどあった２００人ぐらいのグループの方にはすっと連絡がいきます。
そういうグループをちゃんとしっかり行政としておさえておけば，何かあったときに，連絡をすれば皆さんにぱーっと連絡がいくシステムになっているので。
「県のホームページ見てください」と言われても，開いて外国の方は言葉もわからない。

（梅様）
そうです。

（知事）
どこに何が書いてあるのか日本語で書いているからわからない，そこに行き着かないですよね。

（梅様）
そうです。

（知事）
中国のこういう宮華女のような団体は，県内にいくつくらいあるかは把握しておられますか？こういういろんな団体，中国のグループがあると思うのですが。

（梅様）
たぶん一番大きいのは私たちの宮華女のグループで，他にもいくつかありますが，例えば留学生のグループや，またどの地方，どこの生まれ，ハルビンの…といった小さいグループがあります。

（知事）
宮華女の梅さんのグループでは，他に中国系のどういうグループがあって，どういう人がその事務局をやったり，会長をやったりというのはわかっておられますか。

（梅様）
はい。連合会があります。連合会は中国系のグループほぼすべてを管理しています。
連合会の事務局に連絡すれば，あとは関連するグループに伝達すると思います。

（知事）
逆に我々行政として，日頃からおつき合いをね，「そういう組織がありますよ。」，「メールアドレスを知っていますよ」だけではなくて，やはり年に１回は，そういう中国グループの，連合会の人たちと，宮華女の皆さんと，いうような感じで交流をしておけば，いざというときに，顔と顔がわかるので，すぐ連絡をもらってすぐ連絡できるっていうそういう関係を，やはり作りたいなと思っています。

（梅様）
いい考えですね。

令和４年２月１８日　知事と外国人県民との座談会　記録

宮城県国際政策課

（知事）
情報を「どうぞ皆さん，ホームページ見てください」ではなくて，「どうやったら皆さん見られますか」とか，「宮城県のホームページはこういう問題点がありますよ」とか，そういうアドバイスをもらいたいです。
だから我々が日本語の全然わからない人から「ホームページわかりません」と言われたら，「じゃあどうすればいいんですか」というようなアドバイスをいただいく，こういうことをやっていきたいなと思いまして。
今日をきっかけにお付き合いを始めさせていただいたということで，よろしくお願い申し上げたいです。
その目的で今日やっています。

（国際政策課長）
次に，宮城アフリカ協会会長，アスィードウ・アイザック・ヤウ様，お願いいたします。

（アイザック様）
アスィードウ・アイザック・ヤウと，申します。
出身はガーナで，１９８７年に東北大学に入学して，専門は工学科です。
１９９３年に博士課程を終了して，日本の企業に就職しました。
６人家族です。
仙台は結構長いです。
外国人のことについて，県知事が考えていただいているのは素晴らしいなと思います。
私の協会の紹介をいたします。
宮城アフリカ協会（AFAM)は，２００２年に設立しました。
設立の目的ですが，東北大学，または他の都道府県には，アフリカの留学生がいます。
そういう人たちは，私も同じだったのですが，日本に来て，大学で勉強して，地域と関わらないで，卒業していくのがもったいないなと思いまして。
ですから，何らかの形で皆集まって協会を作り，社会参加すれば，とてもいいのではないか，ということで呼びかけがあって設立されました。
宮城県には東北地方の大学・企業に在籍するアフリカ出身者も結構います。
AFAM は全てのアフリカ出身の人たちの連合会です。
何か問題などが起きた際に話し合いながら解決していきます。
東北大学，秋田大学，山形大学，福島大学などで，ほとんど大学院で生活しています。
全てのアフリカグループの中心的役割をしています。

日本のコミュニティー，アフリカの価値観や文化を理解するために，いろいろなことをやっております。

特に東北地方の復興の活動も，いろいろな場面でかなり力を入れています。
また，市民活動に参加して自治体等の団体と協力しています。

活動の内容ですが，一つには老人ホームを訪問し，お年寄りの皆さんと音楽やダンスを通じて交流し，アフリカの価値観を伝えています。

それから，県の中学校の交流事業に参加し，国際理解の促進に努めています。
MIA と連携して，中学校と高校の交流事業にも参加しています。

自治体が開催するイベントにも積極的に，参加しております。
それから，アフリカのビジネスアピールをしております。
これは一つの例ですが２０１９年４月にアフリカンビジネスセミナーを仙台で初めて開催しました。
これはかなり大きなイベントでした。
目的は，東北の，日本のビジネスコミュニティーにアフリカのビジネスを紹介して，宣伝することです。
会場には地元の企業からの留学生，在京の大使館からの参加もあり，地元のテレビ局からの取材もありました。
ビジネスの機会を知るとともに，アフリカとの交流の機会になりました。

２０１８年９月にはまた，JICA の共催，AFAM の主催で，SDGs をテーマにわかりやすく説明しました。
その際は SDGs があまり何か分からなかったりしたので，専門家，ケニア大使に，出席していただいて，アフリカの SDGs への取り組みをわかりやすく紹介していただきました。
日本側にＪＩＣＡの本部からの参加者もいらっしゃいましたので，アフリカそれに対してどのように連携して，ＳＤＧｓの活動をしているのかのお話をしていただきました。
また，パフォーマンスを通してアフリカの価値観を発信しました。

コロナ前は毎年，セミナー等を開催していまして，２０１９年には「アフリカセミナー＆カルチャー」を開催しました。
これは「知らないアフリカを発見しよう」というテーマで，いろいろなパネルセミナーやパネルディスカッションのほか，ゲーム・ブースの展示を行いました。
ダンスパフォーマンスやアフリカ料理のセクションを設けて，知らないアフリカの発見を市民に発信しました。
３７０人以上の参加がありました。

次に高齢者との活動です。
これは老人ホームを訪問したもので，ほとんどのお年寄りがアフリカの人と話したことがないとおっしゃっていたのが印象に残っています。
非常に素晴らしいイベントだと思っています。

田植えも行っています。角田で農家の皆さんと触れ合いました。
私たちのグループは留学生が多いですが，福島の問題などは，皆福島のことについて意見を持っていたので，植物はどうなっているかとかそういうこともあまり分からなかったので，コロナの前には年に１回，福島のスタディーツアーを実施していました。
これも，福島の状況を確認しながら，アフリカの学生にも納得してもらうということで，セミナーもよくやっています。
コロナでもできるだけ地域との連携を続けていこうということで，ウェブや，オンラインによる教室も開催しました。

留学生は卒業して国へ帰るときにどのように準備するかわからない人もかなりいます。
実際に連絡があったら，どのようにしたらいいのか，また，日本に何年かいて，日本の生活になってしまって国に帰るとまた新しいカルチャーショックを受けるので，どのようにしたらいいのかとか，そういうアドバイスを AFAM の卒業生が行います。
３年で，そういう準備，国に帰ったらどうしたらいいのかといったアドバイスをします。

コロナの問題で仕事を探すのは非常に難しいので AFAM は在日大使館と連携しています。
学生が卒業して国に帰る前に，大使館を通して各国の企業への働きかけを依頼しています。
そうすることで，国帰ったらその就職先は確保できていることになりますので，仕事に関しては問題ないということになります。
これも非常によかった活動です。

アフリカの留学生は，ほとんど日本の奨学金をいただいていますが，家族を連れてくる学生もいらっしゃいます。
奨学金は１人分なので，家族が２人，３人と４人とか，そうなった時には非常に，難しいです。
アルバイトを探したらいいとかそういうのもありますが，今はなかなかアルバイトに関しても，コロナの関係があるので，厳しい学生は結構今いらっしゃいます。
AFAM の方にもよく，相談があります。
困っていることは，必ず AFAM の方に連絡があり，AFAM の役員で知恵を出してそういった学生にアドバイスをしています。

特に，コロナの情報とか，ワクチンのことについてはいつも，MIA からいろいろな情報をいただいています。
それが一つのルートですが，他には，東北大学にはグローバルラーニングセンターというところがあるので直接やりとりをしています。
AFAM が大体２００名以上のメンバーをつなぐネットワークを持っていますので，ワクチンの話や，接種スケジュールなどについて，東北大からいただいた情報をそこで流しています。
情報を流すとほとんどみんな反応して，意見を出したりするというようになっています。
卒業して，国に帰っても，やはりまだ AFAM が皆をつなげています。
国の状況ですとか，そういうものも，グループを通して，情報交換をやっています。
そのようにして，できるだけ新しい情報とかそういうものがあればメンバーさんに共有するということなっています。
どうもありがとうございました。

（知事）
アフリカは本当に広くて，それこそいろんな民族の方がいて言葉も違うでしょうし，文化も違い，政治の体系も違いますので，それを一つにまとめるのは非常に難しいのではないかと思うのですが，AFAM の他には同じようなそういうアフリカの人たちのグループ，あるいは国単位のグループ，地域ごとのグループのようなものはあるのですか。

（アイザック様）
仙台には，国単位の協会はありません。
ただ，東京とか大きい都市とか，大きい街とか，そういうところでは，国単位の協会がありますが，アフリカ全体の協会ではたぶん，AFAM しかありません。
国単位はよくありますが，アフリカ単位でやっているのはたぶん AFAM しかありません。
大使の皆さんも同じことをおっしゃっています。
宮城はアフリカ単位でやっていますが，皆集まるのは東京などではありえません。
AFAM は何らかの形で皆集まる形になったようで，大きな協会ができるようになりました。

（知事）
AFAM のメンバーは基本的に留学生，大学院生の方達，ＯＢの方たちですよね。

（アイザック様）
はい。

（知事）

そのご家族の人たちもこの中には入ってくるのですか。

(アイザック様)
皆家族も入っています。AFAM は宮城からスタートしましたが，東北地方に拡大しています。

（知事）
仙台で AFAM に入っていない方はいらっしゃらないですか。

（アイザック様）
いません。

（知事）
東日本大震災のときはどうでしたか。

（アイザック様）
ちゃんと情報が入って伝わりましたが，その時は，あまり大きなネットワークがなかったので，情報交換などはあまりありませんでした。
それが経験になって，どのようにしたらこういった問題があったときに，皆で情報を流すことができるのか，そこから考え始まりました。
大震災の時は，特に角田などに住んでいるアフリカ人は結構問題がありました。
福島に近かったので。
２，３週間探しても，誰がどこにいるのかわかりませんでした。
大使館にお話していた問題が結構ありました。
結局，見つかりましたが。
今後このようなことがあるとあまりよくないのでもっと正確なネットワークを考えましょうということで，皆でネットワークをつなげています。

（知事）
先ほど東北大学と MIA とおっしゃいましたが，情報はやはり東北大学からの方が多いですか。

（アイザック様）
いえ，MIA からの方が多いです。
SenTIA については去年までは毎年地球フェスタをやっていました。
地球フェスタでは AFAM のパフォーマンスがナンバーワンです。

だから SenTIA と AFAM は非常に連携していて，そちら経由でもいろいろな情報が入ってきます。
また，特に MIA からはよく情報が入ってきます。
今日のイベントも MIA から私に直接連絡がありました。

（知事）
今 AFAM の会員は何人ぐらいおられますか。

（アイザック様）
学生なので，卒業したら国に帰りますし，また新しい人が入ってきます。
７６人いますが去年卒業した留学生はもう国に帰って新しい留学生が入って来ていますので会員数はいつも同じではありません。
帰っても会員で，会員はつながってはいますね。

（知事）
ありがとうございました。

（国際政策課長）
続きまして，シュレスタ・ハリ・ゴパル様お願いします。

（ハリ様）
本日お越しの皆様，こんにちは。
海外在住ネパール人協会日本支部，仙台の理事長のシュレスタ・ハリ・ゴパルと申します。
大震災の前，ちょうど２０１０年の４月に留学生として日本語学校に入学しました。
日本語学校で２年ほど勉強し，仙台にある専門学校で２年ほど勉強しそのまま就職活動をして，現在，インド・ネパール料理と食品雑貨店を経営しております。
最初すぐに大震災となりましたが，ネパールの方は５，６年前に地震がありましたがそれまでは地震がない国だったので，地震にすごく驚いた経験もあって，本当に困りました。
「これも人生だから頑張らないと」と思って今までやっています。
海外在住ネパール人協会はネパール政府公認の非営利団体です。
ネパール人が何か困ったときや，本当に最近の経験ですが，ネパール人の留学生が少なくなって，家族も誰もいない，友達もあまりいないので，団体でいろいろサポートしなければならないということが結構あります。
私の留学生の頃も日本語が全く分からなかったのでそういう経験が結構あって，何かあった方が絶対サポートになるかなと思いまして，それでいろいろサポートなどをしております。

今，約１１年目になります。
みんなでいい宮城県を作る一歩となれば幸いと思っております。

早速活動の紹介をいたします。
こちらはＮＲＡ海外在住ネパール人協会のロゴです。
山があって太陽があって。大体８５か国ほどにあります。
仙台にもあり，日本でも１２ヶ所に今なっております。
ネパールではいろいろ組織があり，お祭りでも何でも一緒に協力してやります。
こういう献血などを向こうでは結構やったりするので，コロナの関係で，献血がちょっと足りないなという話を聞いて，できるのではないかなと思って，みんなの集まりで去年，２０２１年の８月２１日に仙台で行いました。
うちのチームが１５人ですが，１９リッターくらい献血しました。

コロナでなかなか食べ物がなくて困っているといった情報が結構入ってきます。
文化の違いなどがあって，食べ物とかも，「いやちょっと和風はあまり食べられません」ですとか，日本の料理はあんまり慣れてないとか，それで一応ホテルから食事でもらっても，「いやこれはちょっとおなかがすいているけど食べられません」とかいろいろあります。
それでこちらでいろいろネパール食品を送ったりなど，手伝ったりしました。

コロナの注意喚起の方もいろいろ日本語学校とか，飲み屋とかに入れたりしました。
履歴書の書き方や，翻訳通訳ですとか，いろいろ生活サポートやマナーアップのことなどもいろいろ手伝っています。
今はコロナでなかなか集まりができないのですが，もしできるようになったらいろいろお祭りなどでの文化の発信などができればと思います。

今ネパールの方は多いですね。
前の方が多かったのですが，今はほとんど就職が決まらなくて。
私のころは，私より長くいる先輩はあんまりいませんでした。
宮城県では就職できないというよりも，生活はちょっとできないのではないかなといった感じで。

（知事）
生活ができない，ですか。

（ハリ様）
アルバイトとかも安い時給であったり，就職もすぐ決まりませんでした。

本当にそういうときはみんな心配で卒業して国に帰って行くか，例えば，東京とかの大きい町に移動するとか，皆そういう人たちがほとんどでした。
それで，私の頃は，ちょうど２０１２年ですね。
専門学校に入って２０１４年に卒業しました。
それでやっぱり仙台も，宮城もいいのではないかな，結構住みやすいなと思いました。
仕事も決まりまして，あとは他のみんなもどんどん，私のような先輩もいるのだから大丈夫じゃないかなって。
ちょっと見本のようになってしまいました。
そのきっかけでネパール人がどんどん，どんどん増えて，前は結構いたのですが，最近はコロナの関係で，内定取り消しとか，やっぱりこちらちょっと厳しいですねという話で。
最近ネパール人は，自動車学校とかも通っている人が多いですが，その就職で，ここにはないのでじゃあ名古屋か，と。
それが一番なので，そのために宮城から移動している人が多いかなと。

（知事）
ものづくり関係に就職される方が多いのですか。

（ハリ様）
特に決まりはありません。
まずは安定して社会人になりたいというのだと思うのですが，その流れで，農業関係とか車の方とか，そういう関係をされていると思うのですが。

（知事）
決して就職がないわけではないと思うのですけどね。
情報が上手くつながってないのだと思います。
皆さん方の，働きたいという人たちの情報が会社に伝わってない，つながっていないのではないかなと思います。

（ハリ様）
私のころも２０１０年くらいなのですが，コンビニとかコミュニケーションを取れるところは，有名でも出てきませんでした。
もっと大きい工場などでも，入れるチャンスがあっても，例えば日本語がわからない。
なかなかいい仕事がありませんでした。
今も会社で人を欲しいのかもしれませんが，なかなかそこをちょっと，あんまりうまくいかないのかなあとは思います。

（知事）
それを今度いろいろ教えて欲しいです。
今宮城県にいるネパール人の方はこの協会にはほとんどすべて入っているということでいいですか。

（ハリ様）
興味ある人は入りますが，何かあった時は会に入っているから何かサポートしようということではなく，入っていなくても，サポート自体は皆にしています。

（知事）
だいたい今宮城県にいるネパール人の方で協会に入っている人の割合は何％ぐらいですか。

（ハリ様）
だいたい７割８割ぐらいです。
つながりもほとんど仙台全部で，大体みんなつながっているので連絡はすぐ取れます。
ちょうどこの間のケースも，近くの学校でお一人亡くなったのですが，その時も空輸して欲しいとか，体が欲しいとか，家族でやるのですが，結構お金がかかるので，その時は協会で全国にサポートしてくださいとアピールして，募金するなど，そういう感じです。

（知事）
ありがとうございます。もう１回回ってから，お話をお聞きします。
どうもありがとうございました。

（国際政策課長）
ハリ様どうもありがとうございました。
皆さん熱心にお話いただいたので，２時１０分過ぎになりました。
お時間が２時３０分までなので，あと少しにはなりましたけれども，これから皆さんが普段暮らしていて，外国人の方が暮らしやすい宮城県にしていくためにはどういうふうにすればいいかということについて，日頃から，思っていらっしゃることがあれば，ご意見をお伺いできればと思います。

（知事）
２時４５分まで大丈夫です。

（国際政策課長）
それでは，梅様からお願いします。

（梅様）
今コロナで対面活動を中止していますがコロナ収束後には対面活動も再開されると思います。
皆やはり対面活動を期待しています。
対面活動をするときに一番困っていることは，場所が取れないことです。
今実際に SenTIA の方，国際センター，多文化共生センターの方に二つ部屋がありますが，私たちの会，または私達のような会でいろいろな講座を開いています。
言葉の壁で，私たちも，日本語講座とか，社会保障の制度の講座とか，また遺産税とかいろいろな講座を開いています。
特に毎月１回の中国語の講座を開いていますが，場所がなかなか取れません。
国際センターの方では３ヶ月前からしか予約ができません。協賛金を払っていれば，４ヶ月前に予約できるのですが，それでもなかなか予約ができません。
予約が取れないから活動ができません。
それでお願いしたいのですが，私たちのような外国人コミュニティグループに無料で使える施設を増やして欲しいです。

（知事）
仙台市内が多いのですね。

（梅様）
富谷の方もよく使っていますが，富谷の市民だったら，富谷の市民の名前で予約をして使えるのですが，やはりこういう講座は利便性の面で仙台市内がいいかなと思います。

まだ私たちは多文化共生のために，また子どもの継承語教育をしています。
私たちは子ども中国語教室を開いていますが，毎月１回での講座の場所の確保が難しいです。
もっとこういう専用の教室を提供いただければ，もっと子どもに親の言葉を教えることができます。

（知事）
要は中国語を教える。

（梅様）
そうですね。

（知事）

これから日本語なっちゃいますからね。

（梅様）
日本語は学校で勉強できるので，親の母語である継承語を勉強するのが大事です。
親子との関係もよくなるし，自分の言葉がわかるから，自信を持って，日本の小学校で勉強する意欲もアップになります。
子どもと親の交流がスムーズになり，いじめも少なくなるという調査があります。
子どもの継承語の勉強は，すごく大事です。

（知事）
教える先生は誰が？

（梅様）
留学生か私達役員かまたお母さんたちが教えます。
授業する場所が必要です。
いままで場所の確保が難しいです。
こういう場所がもしあれば，各外国人コミュニティグループが自分なりの文化紹介図書や児童書などを展示すれば，それこそ一つの世界です。
そこの教室にいけば，いろんな文化を学ぶこともできる。
そういう専用教室，もしあれば，ありがたいです。

私は，ボランティアとして，来られたばかりの小学生や中学生に日本語を指導しています。
小学生の場合は図書室で勉強する機会が多いのですが，図書室に外国語のコーナーがありません。
図書室に外国語専用のコーナーを設置すれば，日本の子どもさんにも外国語を触れることになるし，来られたばかりの外国人の子どもさんが，そこに行けば自分の国の言葉の本があるというのはすごく親しみやすいです。

そういうコーナーを設置すれば，今言うバイリンガルとか，トリリンガルとかの育成にもつながるかなと思います。
そういう専用のコーナーを図書室に設置していただければ，それが多文化共生につながるかなと思います。
実際に他の県でそういう外国図書コーナーを設置しているところもありますので，継承語専用教室を提供している県もあります。

（知事）

例えば，どこの県が継承語教育を？

（梅様）
今聞いたところ確認はしていませんが，福島県などでやっているようです。

（知事）
難しいのは，図書館は泉に県立図書館があるのですが，あそこであれば私，県知事なので。
でも街中にあるのは仙台市の図書館なので，仙台市の市長さんが判断しないといけないのですよ。

（梅様）
ここで小学校の図書室に外国語図書コーナーを設置すると提案します。

（知事）
そうですね。これも，市町村の教育委員会なので，なかなか難しいのですよ。
県知事がなんでもできるかというと，できないのですよ。
そういうの，市町村長にもちょっといってみますね。

（梅様）
よろしくお願いします。
先ほども少し触れたのですが，ボランティアとして，来られたばかりの外国人子どもさんの小学生と中学生の日本語指導をしています。

今の制度は来られたばかりの外国人子どもたちの日本語レベルに関係なく小学生か，中学生か関係なく，与えられた指導時間が同じです。
指導方法も決められず，指導用の教科書もないです。指導制度を作って欲しいです。
来られたばかりの外国人子どもたちが日本の生活に，日本の教育に，できるだけ早く慣れるように，小学生なら小学生の指導制度，中学生なら中学校の指導制度，それぞれ違う制度が必要ではないかと思います。
担当してみたらすぐわかるのですが，お子さんのレベルよって，指導も違うし，子どもさんが何年生か，例えば小学校１年生，２年生，３年生，４年生，５年生，全部指導の仕方が違います。
中学生は本当に難しいです。中学生には指導者が１人では足りません。
中学生で，例えば受験生なら、指導者の負担が大変です。
学年ごとに分けて，さらに日本語能力レベルに分けて指導者派遣制度があればいいかなと思っています。

（知事）
今はそういうものが全部一緒くたになっているわけですか。
レベルある子が一緒になって日本教室みたいになっちゃう？

（梅様）
一緒に勉強するのではなくて，個別で指導者を派遣しています。
派遣された指導者は，あとどのように指導するのか，基準のようなものがありません。
この子の日本語能力は高いか低いか，どういう勉強が必要なのかも分かりません。
例えば中学生なら，思春期に当たります。
精神的な面のフォローも必要です。
ありがとうございます。

（知事）
ありがとうございます。

（国際政策課長）
アイザック様，お願いします。

（アイザック様）
外国人が安心して暮らせる宮城をつくるというテーマですが，安心安全な日常を送るために必要なものがあれば，誰でも安心して，地域で生活することができます。
それで，宮城で外国人が安心して暮らすために必要なものについて考えました。
以前と比べると，いろいろな設備があって，宮城は住みやすくなってきました。
私が来日した１９８７年と比べると良くなってきました。
ただ，一番外国人が直面している問題は，やはり言葉です。
言葉は本当に大きいです。
中国とかアジア系は多分，日本語は何とかできるなんですけども，特にアフリカの方とかヨーロッパの方には非常に難しいです。
特に漢字です。
日本語を理解し，生活に役立てるのであれば，ストレスを感じず誰でも安心して生活ができます。
言葉の問題はどうやって解決するか。
ときどき市役所から，いろんな書類が届きます。
最近は一生懸命 MIA でも仙台市のホームページでも，英語や中国語を掲載していますが，チラシで情報が入ってきたときには日本語です。

紙で届いたら，外国人にとっては非常にストレスであるということがわからない。
ホームページであったら，コピーして，翻訳ソフトに入れれば大体分かりますが，紙の情報はわからない。
一番の問題はこれ（紙）です。
できるだけその英語も書いてもらって。

（知事）
英語なら大丈夫ですか。

（アイザック様）
英語なら大丈夫ですが，もちろん英語がわからない外国人もいるので英語系だけ出して，他の英語がわからない人に対応しないのはよくありません。
私が一つの方法と思っているのは，例えばこういうチラシの情報が入ってきたときに，その下に，ＱＲコードを入れることによって，ＱＲコードをスキャンして翻訳できるサイトであれば，そこに飛ばして，翻訳してもらう。
チラシにはできるだけＱＲコードを入れた方がいいかもしれません。

もう一つは，私のグループは留学生が多いですが家計，お金に問題があります。
さっきも少しお話しましたが家族をもっている留学生は，本当に大変です。
奨学金は１人分なので。私が来たときも同じでした。
家族と一緒に来ましたが，その時の日本の経済は良かったので，アルバイトなども結構あって，だから苦しいときはアルバイトをやればよかったですが，最近アルバイトがなかなか見つからないので，ますます大変です。
宮城県に，日本全国で，シングルマザーの手当がありますね。
外国人の家族を持っている人たちに，そういうシングルマザー手当のようなものはできませんか。
家族をつれているための学生，特に小さいが子どもがいる学生。
何かの制度を作ってくれないかなと思っています
それは一つの意見です。

あとは，宮城県内の施設をアピールするのをあまり県はやってないと思います。
やっていてもおそらく少しだけです。
外国人には伝えていません。
プロモーションが足りないのではないかなと思います。
せっかくいろんな施設があるのに，外国人に役に立つものもいっぱいあるのに，みんなにわかってもらうためのプロモーションは，弱いのではないかと思います。

例えば，利府に大きなスタジアムと大きな公園がありますね。私は最近になって知りました。

（知事）
なるほど。

（アイザック様）
そういうところは素晴らしいです。外国人の子どもたちも公園では遊ぶので，そういう重要なところを，外国人にアピールする。
アピールの方法は，いくつかありますが例えばそこで何かのイベントをやって，外国人を招待して参加してもらうとか。
あとはいろいろな組織があるので，今日は国際フェア，みたいな形で，そういうグループがそこでいろんな活動する。
そうすれば，日本人も参加するし，外国人のことが少しでもわかってくるという感じです。
例えば蔵王地区にはいろいろな温泉もあるし，宮城にはすばらしいところは結構いっぱいありますが，外国人は多分わかっていないのではないかなと思います。
要約すると，やはり重要な施設はできるだけ力を入れて，外国人にプロモーションしていただきたいと思います。

（知事）
それらの連絡を，今までみたいに，「県のホームページに載せているので，皆さんどうぞ来てください。見ない方が悪いです。」ではなくて，私はこれから例えば，アフリカ人の皆さんといったらそちらにお願いをして，「はい。」と。
それを例えば紙でＱＲコードにして，「県の施設はこういうのだよ」ということ，「どうぞご自由にお使いください，はい。」というような感じで，やっていきたいのですよ。

（アイザック様）
ホームページがありますものね。
県のホームページは，欲しいときや必要なときにしか見ません。

（知事）
そうですね。

（アイザック様）
ホームページは何かなかったらたぶん誰も見ません。
AFAM のようなインターナショナルアソシエーションはいろいろあります。
そこを県と仙台市は上手く使った方が，情報を流すとか，情報提供する際には非常に早いで

すよね。

（知事）
しっかり伝わりますものね。
わかりました。
ありがとうございます。

（ハリ様）
さきほども言いましたが，まず一番ネパール人が困っているのは，就職がなかなか決まらないことですね。
もう慣れている宮城県なのに「またちょっといきたいな」という気持ちがあっても，やはり，どうしても生活しなければならないのですがほとんど就職が決まらない。
そこが一番だと思っております。

（知事）
ビザは大丈夫ですか。

（ハリ様）
ビザの問題はたまたま最近週２８時間の就労の関係なども，ありますが，国のルールなので，そこはどうこう言えませんが，そこまで問題はないと思います。

（知事）
はい。

（ハリ様）
あとは，たぶん，ネパール人が数字的に日本で４番目になると思うのですが，それぞれの毎日の生活に関わる表示，例えば漢字などはほとんど読めません。
駅などでネパール語とかも，例えば区役所なりにあれば，幸いかなと思います。
来たばかりですと結構困ります。
私もいろいろ経験してきましたが，先輩の方々がみんな忙しくてなかなかサポートできない場合もあって，元々の学校もいろいろ手伝っていると思うのですが，そこを県の方からもいろいろ可能であれば役に立つかなと思います。

（知事）
デジタルを使わないと無理でしょうね。
もう全部ネパールだけってわけにもいかないので，アフリカの言葉もあるし中国語もある

し。
だから，ＩＴ使ってデジタル化して何かこうぱっと見えるようにしていけばいいか。

（ハリ様）
ピクトグラムのような感じとかですかね。
みんなに伝わればという。

最近，日本全国なのですが，日本で生まれたネパール人の子どもが最近結構増えています。
この十年間のことで，みんなが一番困っているのは，書いても日本語ばっかりなってしまうので，そこを日本語も英語の話題もあって，もし国からもそういう，一つだけでも，結構役に立つかなと思うのですね。
そうすると子どもも守らなきゃいけないし，ずっと日本に住むわけにはいかないかもしれないし，死ぬまでいるかもしれないし，それで子どもが例えば１５歳になってとか，１２歳，１３歳になったときに例えばそのときには中学校に入ったりします。
そのときに途中で，じゃあネパールに帰りますと言っても中途半端になってしまうので…といった心配はよく最近の相談で聞いております。
そういうことや，勉強はどうしていますか，どうすればいいですかといった相談を結構受けます。

やはり先ほど，お話があったように，母国語もしっかり勉強しながら日本語も勉強していかなければならないですね。
世界中にも，アメリカなのかヨーロッパなのか，自分の国に戻るのか，その子どもの勉強のレベルがどこでもできるように。たぶん，それは大問題になるかなと思います。

あとは，さっきお話のあったとおりですが，コロナの情報などでホームページを見ますが，我々のような海外在住ネパール人協会などでは，うちも今４２０人くらいのネパール人とつながっているので，すぐお知らせができます。
本当に大事な知らせなどを，もし何かの方法でいただければ，そのまますぐ発信して困った人たちの役に立つと個人的に思います。

あとは，例えばたまに，さっきお祭りの話もありましたが，日本でもいろいろあると思いますが，ネパールでも大きいお祭りなどがいろいろあります。
ネパール人の気持ちでどうしてもお祭りしたいけれどもそういうことをするところがないということがあるので，もしそういう場所などを決めていただくと，「こういうお祭りならこういうところでやってください」といったことがあれば，すごくいいと思います。

あともう一つは個人で考えたのですが，例えば，ネパールやアフリカや中国などのいろいろな国の文化なども，本当に１％，２％でも宮城県の中に住んでいる外国人の方々について，教える方法があれば，「ネパール人がどういう国，どういう文化だね」であったり，「中国では，こういうふうにやって，こういうところで，こういう感じの生活ですね」であったりとか，そういうことも，教えていただければ，多分将来につながるかなと思います。
カタコトの日本語とかカタコトの英語を使うなど，仲良くしてといってという感じで。
それで全部の国について知ってもらうとか，なにかそういった交流会とかがあれば，お互いの雰囲気にちょっといいかなと，住みやすいかなと。
日本に住んでも，自分の国と同じ感じだったら，たぶんどんどんそっちもいいじゃないですかっていう，そういう考え方が出てくるのではないかなと思います。
もしそうなれば就職率もアップする，そこが一番だと思います。
そうすると宮城県を離れないと思います。
どうもありがとうございます。

（知事）
非常に勉強になりました。
今日，第１回目ですね，こういったようなことも定期的に行いまして，また今日いただいたのは，要望というよりも宿題のような感じで受けとめましたので，受けとめて，やれること全部やるわけではありませんし，県と，先ほど言ったように市と町と村とみんなやり方がそれぞれあって，やれるところが限られていますので，国にお願いしなければならないこともあると思いますし，しっかりと受け取り，まずよく我々何ができるか考えたいというふうに思います。

去年の秋に知事選挙でしたが，その際にオンラインで外国の方と意見交換をしました。
その際にいただいた意見で，介護の試験を取るのに，日本語の試験をまず受けなければならないけどすごくハードルが高くて，受験料のお金がかかってしまって職場を休んでしまわなければいけない。職場を休むと収入が減ってしまってということが困ります，という話があったので，それに対しての補助を早速，今回の議会で出しています。

従ってこうやって意見をいただかないと，皆さんが何に困っていて，何をやればいいのかというのはわかりません。
それはやはり日本人だけで考えるのではなくて，やはり皆さんでなければわからないということがあると思います。
皆さん方は，最初にこちらに来て，一番苦労された方なので，何が悪くて，今まで何が問題だったのがどれぐらい改善されて，そして，何がまだ問題なのかということはわかっておら

れるので，これからも，いろいろご指導いただきたいなというふうに思っております。
まず今日は第１回で非常に重い宿題をいただいたなというふうに思っております。
しっかりと検討させていただきたいと思っております。
どうもありがとうございました。

（以上）